

2017-2018

# Weekly Bulletin of KAKOGAWA CHUO R.C.

● R.I.会長/イアン・H.S.ライズリー ● 地区ガバナー/瀧川 好庸  
● 会長/大西 淳滋郎 ● 幹事/井上 孝明 ● クラブ会報委員長/宮本 鹿司夫  
● 事務局/〒675-0064 加古川市加古川町溝之口 800 番地 加古川商工会議所会 5F

TEL 079-421-5152 FAX 079-421-5559 E-mail info@kakogawa-chuo-rotary.club



ロータリー:  
変化をもたらす

第 2102 号

平成 29 年 10 月 19 日 (木) No 14

ゲスト卓話：地区ローターアクト委員長  
中本 広太郎氏



★ 会長挨拶



★ 地区ローターアクト  
中本 広太郎委員長



★ 矢野宗司会員  
ベネファクター認証



★ こぼと祭り  
2017.10.14

## 会長あいさつ

大西 淳滋郎

皆様、こんにちは。国際ロータリー第2680地区青少年奉仕委員会・ローターアクト小委員長中本広太郎様、ローターアクト地区委員の鶴田彰二様、ようこそ加古川中央ロータリークラブへ。いろいろ勉強させていただきます。宜しくお願い致します。

去る14日土曜日に支援先の稲美町『こぼと園』の第18回こぼとまつりに井上幹事と参加してまいりました。あいさつもさせて頂き、お祝いの言葉と11月5日・日曜日の障がい者支援事業『たちあがる力』を紹介させて頂きました。こぼと園様からも10名くらいご参加頂けると伺いました。また、地域の方もお越し頂けると期待しております。

11月5日・当日は例会となっております。お一人でも多くのご参加を宜しくお願い致します。10月は米山月間、経済と地域社会の発展月間です。米山月間につきましては、26日に金英さんをお迎えしてお話し頂きます。本日は、経済と地域社会の発展月間について私なりにお話し致します。他地区の話ではありますが、観光という面から地域経済を盛り上げる話です。

論語の中に『朋有り遠方より来たる、亦た楽しからずや』という一語があります。ここ何ヶ月か続けて学生時代の友人や後輩から連絡が入り、先日も熊本より後輩が姫路まで来ると連絡が入りました。彼は日中は淀に行くそうで夜に会いましょうと言うことになりました。彼は熊本出身で、作家であり熊本県のアドバイザーでもある小山薫堂さんの高校の先輩に当たります。普段、小山薫堂さんの活動の一つである熊本県の広告・宣伝に関わっているようです。小山薫堂さんをご存じの方も多いかと存じますが、映画おくりびとの脚本家、日光金谷ホテル・顧問、京都・下鴨茶寮・代表取締役社長、くまモンの仕掛け人、天草航空をはじめ天草のピーアール大使を務められています。特に熊本に思い入れの強い方です。

『くまもとサプライズ』という地域振興キャンペーンがあります。これは、『熊本県民の意識改革キャンペーンをやりたい』と小山薫堂さん側から申し入れ熊本県側が受け取った形で始まっています。取り組みの一部をご紹介します。

1. 外から人を呼ぶことばかり考えて、地元の人には地元の良さを理解していない。
2. 地元の人が見落としていた地元の良さを、気づく取り組みにする。地元の者が楽しむ事、楽しみの口コミは昔は時間が掛かったが SNS 等のソーシャルメディアを使えば瞬時に伝わり、発信されていく。

3. 熊本県の新幹線元年事業のアドバイザーもされました。熊本県民にとって当たり前でも観光客の目線で見るとびっくりするものがたくさんあることに、みんな気付いていない。だから、その“びっくりするもの”を観光資源にしようというプロジェクトを立ち上げた。自分たちが住んでいるところの価値を再発見することによって、まず自分たちが「いいところに住んでいる」という幸せな気持ちになって、それから観光資源として外に発信する。
4. 小山薫堂さんはあるセミナーで、「どうしたら天草が発展すると思いますか？」という質問をされたときに、「1軒本当に上質で小ぶりな宿があったらいい。それが本当によければメディアがやってきて、天草が有名になり、周りの人がそれに合わせて一生懸命やっていくから、行政がやるよりもいいはずだ」と答えたそうです。その後、その質問者から「自分がやろうとしたことは間違っていないのだと確信を得て、つくった宿が半年後にオープンします」という内容の手紙を送って来られたそうです。その宿が「石山離宮 五足のくつ」です。新しい挑戦にも目を向けた観光への取り組みの一つです。
5. 若い者が楽しむだけでは発信力が薄い点を指摘された。

『くまもとで、まってる』という17分弱の観光PRビデオがあります。しかしこのビデオには

名所旧跡の観光地はほとんど出てこない。

球磨村にただ一人残る渡し船の船頭さん、阿蘇の写真を撮り続けるカメラマン親子、山鹿市にある100年以上の歴史を持つ芝居小屋・八千代座で踊る101歳のおばあちゃん、熊本の風景を切り絵にする切り絵師、天草の漁師とその孫、熊本で普通に暮らしている人々に焦点を当てたドキュメンタリー映像に仕上げている。国際短編映画祭で観光映画大賞を受賞されています。

先日、私もあらためて「くまもとで、まってる。」のビデオを拝見しました。素晴らしい映像で、熊本における日常生活が、加古川にいる人間にとっては非日常生活ですので、その映像に見入ってしまいました。兵庫県にも素晴らしい地域がある。そして生活がある。その土地の日常を素直に伝えるだけで、素晴らしい現象が起きるだろう。と考えさせられる映像でした。

本日は、経済と地域社会発展月間の観光についてお話し致しました。